

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

最新アミロイドーシスのすべて — 診療ガイドライン 2017 と Q&A

監修: 安東由喜雄 熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学分野
医歯薬出版、2017年3月15日 第1版第1刷発行

■1 牛車腎気丸

疾患:

遺伝性 ATTR アミロイドーシス

有効性に関する記載ないしその要約:

遺伝性 ATTR アミロイドーシス/トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチーの治療の項に、下記の記載がある。

『遺伝性 ATTR アミロイドーシスの症状は多彩であり、種々の対症療法が考案され、これにより生命予後が延長している。ドナー不足などの問題により肝移植が不可能な例や、肝移植前後の患者に対して、以下の治療を行う。

末梢神経障害によるしびれ感、疼痛に対して、サインバルタ (30 mg) 1~2 錠や、トリプタノール (10 mg) 3~6 錠、リリカカプセル (150 mg) 2~4 錠、ノイロトロピン (4 単位) 4 錠、 ترامセツト配合錠 4 錠、ツムラ牛車腎気丸 (7.5g) 3 袋を使用する。』

■2 抑肝散

疾患:

興奮性 BPSD

有効性に関する記載ないしその要約:

Alzheimer 病の治療の項に、下記の記載がある。

『BPSD (behavioral and psychological symptoms of dementia) に対する非薬物療法、薬物療法と対処の指導、進行期の合併症の対処を考慮する。メマンチンや抑肝散は興奮性 BPSD に使用されることもある。』